

洛西ふれあいの里保養研修センターの今後のあり方に関する基本方針（案）に対する
意見の内容と意見に対する本市の基本的な考え方

1 市民意見募集の結果

(1) 実施期間

平成25年3月14日（木）～平成25年4月13日（土）31日間

(2) 応募者数・御意見数

ア 応募件数 69件

イ 御意見数 87件

区 分	御意見数
宿泊・貸館機能に関すること	24件
研修機能に関すること	10件
生きがいづくり機能に関すること	26件
・教養講座	9件
・健康増進室事業	17件
運営に関すること	13件
その他	14件
合 計	87件

2 御意見の内容と本市の考え方

(1) 宿泊・貸館機能に関すること（24件）

御意見の要旨	件数	御意見に対する本市の考え方
・山科区に住んでいるが利用はとても不可能だ。市民全体の利益を考えて今後のあり方を検討して欲しい。	1	・今後、市民の皆様のいのちと暮らしを守る高齢者福祉分野をはじめとする福祉関係予算の一層の増加が見込まれる中、限られた財源をより有効に活用する観点から、保養研修センターのあり方検討を進め、広く市民の皆様全体の利益を十分に考慮して、宿泊・貸館機能を廃止することとしました。

<p>・宿泊事業の廃止は必要である。また、ヘルスパiaや京都テルサのような府市の類似施設の見直しも必要だ。</p>	<p>1</p>	<p>・京都市健康増進センター（ヘルスパia 21）については、市民の生活スタイルを「運動・栄養・休養」のバランスのとれたものとし、市民のだれもが、自己の年齢、体力に応じて、より安全により効果的に健康づくりを行えることを目指して、医療専門職や健康運動指導士等の専門職員を擁する施設として平成5年7月に設置したものです。</p> <p>しかし、近年では、民間のスポーツ施設が増加している状況も踏まえ、引き続きそのあり方について検討していきます。</p>
<p>・効率性重視の視点から言えば整理・統合は必要な時期にきていると思う。桂坂に住む住民にとって市内の施設まで行くのは不便である。予算が無いことは十分承知しているが、地域コミュニティの維持・向上に向けて、生きがいづくり機能の確保を切望する。</p> <p>・現在、年間を通して保養研修センターを利用している。平成24年度では、健康すこやか学級や筋トレ教室、スカイクロスなど、延べ45回、1899名もの多くの方が利用してきた。障害のある方を対象とした事業としても、交流会を2回開催し、109名もの方が利用している。保養研修センター抜きでのこれらの活動の実現は不可能だと思うので、是非、存続して欲しい。</p>	<p>6</p>	<p>・保養研修センターの貸館機能については、地域住民の皆様大変親しまれ、地域の自主的な生きがいづくり活動が活発に行われており、地域コミュニティの維持・向上に大きく寄与しています。このため、大枝・桂坂学区において、その代替機能の確保に向け検討を進めます。</p> <p>また、これまで多くの市民の皆様にご利用をいただいていたふれあい広場については、引き続き、緑地としての機能の確保に努めます。</p>

<p>・民間宿泊施設のバリアフリー化はまだまだ進んでいない。洋室でお風呂やトイレ等バリアフリーに対応している施設は京都市内には数か所しかない。</p> <p>また、障害のある方の団体がまとまった人数で宿泊する場合は、保養研修センターでしか宿泊ができない。</p> <p>・市内民間宿泊施設でバリアフリー化された宿泊施設は高額で利用しづらい。</p> <p>・これまで総合支援学校の宿泊学習として活用しているが、生徒達にとって使いやすい施設であるとともに、他に低廉な施設がないため存続して欲しい。</p>	4	<p>・これまでのバリアフリーに関する法律の施行によって、一定規模以上のホテル・旅館においてはバリアフリー化が義務付けられており、バリアフリー化は進展していると考えています。</p> <p>一方、宿泊・貸館機能については、本市で利用1件当たり約13,000円負担しており、今後市民の皆様のいのちと暮らしを守る福祉関係予算の一層の増加が見込まれる中、限られた財源をより有効に活用する必要があります。</p> <p>なお、本市では、平成24年12月から障害のある方や高齢の方が京都のバリアフリー旅行に関して気軽に相談できる「京都ユニバーサルツーリズム・コンシェルジュ制度」を創設するとともに、「京都ユニバーサル観光ナビ」のホームページ上でもバリアフリーに配慮した宿泊施設の紹介を行っています。</p>
<p>・年に3回以上、団体で研修・会議等に利用しており宿泊も兼ねている。西京区内には公的な施設が少なく、あっても利用料が高い。保養研修センターは、高齢者や障害のある方にとってなくてはならない施設であり廃止について再考して欲しい。</p> <p>・自治会、老人クラブで便利に使わせてもらっている。特に人数の多い時は良い施設であり、今までどおりに使用したい。</p>	4	<p>・貸館機能については、市内中心部における「ひと・まち交流館京都」や「キャンパスプラザ京都」の設置等により、稼働率が低迷し、宿泊・貸館の利用1件当たり、約13,000円を本市が負担している状態となっています。一方で、市民の皆様のいのちと暮らしを守る福祉関係予算の一層の増加が見込まれる中、限られた財源をより有効に活用する必要があります。</p> <p>西京区内には、比較的低廉で会議室等を御利用いただける施設として、本市が設置する京都市西文化会館ウエスティのほか、京都市住宅供給公社が提供する洛西新林・境谷・竹の里・福西会館があり、今後、大枝・桂坂学区において、地域の自主的な活動拠点の代替機能の確保に向け検討を進めます。</p>
<p>・保養研修センターの各機能の現状については大変な厳しさを感じるが、資金面については京都府への補助申請を検討してみてもどうか。</p>	1	<p>・利用者が低迷している中、さらなる税金の投入は困難であると考えています。</p> <p>また、保養研修センターと類似の施設である老人休養ホームについても、全国的にその設置数はピーク時の半分以下と減少している傾向にあります。</p>
<p>・送迎バスがあれば集客できると思う。</p>	3	<p>・保養研修センターには、2台の送迎バスがあり市内であれば、御希望される場所へ送迎を行っていますが、稼働率が低迷している状況にあります。</p>

<p>・京都市民と市民以外の方とで利用料金に差を設けてはどうか。</p>	3	<p>・現在、宿泊機能については、民間宿泊施設の増加等により、利用者数が低迷し、採算性の確保が著しく困難となっており、宿泊・貸館利用1件当たり約13,000円を本市が負担している状態となっておりますが、行政が提供するサービスの性質上大幅な値上げは困難であると考えています。</p>
<p>・総合支援学校などの修学旅行などに御利用いただければどうか。</p>	1	<p>・これまでから、教育旅行のプランを用意し、総合支援学校による御利用をはじめとする修学旅行等に御利用いただいています。</p>

(2) 研修機能に関すること (10件)

市民の皆様の御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>・介護機器の展示については、機器を直接触れることができる貴重な場所だと思いが、市内北部からは遠方であるため、市内中心部への移管は賛成だ。</p> <p>・施設職員は、勤務シフトの関係で、保養研修センターでの研修は参加しにくい。交通アクセスの良い「ひと・まち交流館」で研修を実施することにより、研修に参加しやすく、福祉に携わる職員の質の向上に繋がると思う。また、職員の意欲も湧くと思う。是非、研修を受けて質の高い介護を提供して欲しい。</p> <p>・介護機器の展示については、「ひと・まち交流館京都」への移管は物理的に困難だと思う。スウェーデンやデンマーク各都市の補助具センターは日本と比べものにならない程充実している。機能縮小ではなく、拡充するべきである。</p> <p>・介護機器の展示や介護実習が可能な研修施設として広報を強化し、研修部門の移管を再検討して欲しい。</p>	6	<p>・福祉ニーズが多様化し、研修受講者が多様化する中、現在、研修受講者の勤務地から保養研修センターまでの移動には相当な時間を要しており、課題であると認識しています。</p> <p>このため、今後、福祉に携わる職員の一層の質の向上を図るためには、研修を受講しやすい環境整備の必要があると考えており、研修受講者の利便性を一層向上させるためにも、交通アクセスの良い「ひと・まち交流館 京都」内に設置する京都市長寿すこやかセンターへ承継することとしております。</p> <p>なお、介護機器の展示についても、研修機能の京都市長寿すこやかセンターへの統合・拡充と併せて、「ひと・まち交流館京都」への移管を予定しており、引き続き、必要な機器の展示を今後も継続するとともに、インターネットを活用した広報媒体として実施している「京・福祉の研修情報ネット」の充実に努めます。</p>

<p>・介護福祉士等の資格試験対策に利用できる研修を実施して欲しい。</p>	1	<p>・これまで、介護支援専門員の実務研修受講試験のための受験対策講座を実施し、資格試験に対応した講座を開催してきました。</p> <p>今後、研修機能については、京都市長寿すこやかセンターへの統合・拡充し、研修の充実を図ります。</p>
<p>・研修の充実を図るため、研修を受講された後にアンケートを実施すれば良いと思う。</p>	1	<p>・これまでから、研修の充実を図るため、利用者アンケートを実施しており、今後も継続します。</p>
<p>・社会福祉研修については、市の委託を受けて保養研修センターが実施しているものの他に、各種団体が実施している研修があるため、これを機に全体的な見直しを行い、新たに社会福祉研修センターを設置してはどうか。</p> <p>また、「京・福祉の研修情報ネット」の更なる充実や福祉介護分野におけるキャリアパスに対応した研修体系の充実を図ってはどうか。</p>	1	<p>・京都市長寿すこやかセンターが保養研修センターの研修機能を承継することにより、「京・福祉の研修情報ネット」の充実を含め、センターの周知に努めるとともに、福祉に携わる職員の質の向上に向けて、今後、社会福祉研修の充実を図ります。</p>
<p>・研修機能の長寿すこやかセンターへの統合は理解できるが、介護機器の展示スペースや実技研修が実施できるよう「ひと・まち交流館京都」のハード面での整備や相談指導等のための職員体制の充実などのソフト面での整備を図ってほしい。</p>	1	<p>・検討委員会からも研修機能の統合によるメリットを最大限生かす必要があると提言をいただいております。今後、ハード・ソフト両面から必要な体制等の精査を行います。</p>

(3) 生きがいがづくり機能に関すること (26件)

ア 教養講座について (9件)

市民の皆様の御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 健康増進事業については、民間事業者が増加しているが、陶芸などの教養講座については、高齢者が増加する中、行政で継続させるべきである。 地域住民による利用が多いことは当然のことであり、廃止の理由にはならない。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 教養講座をはじめとする生きがいがづくり事業については、老人福祉センターで類似の事業を実施している他、現在本市では、地域の高齢者の皆様の交流促進に関する取組として、高齢者が身近に気軽に集える高齢者の居場所づくりに取り組んでいます。
<ul style="list-style-type: none"> 教養講座等の保養研修センター実施事業について、保養研修センターらしい取組が不足していたのではないかと。静かな自然環境という特色を生かしたセンターづくりをして欲しい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 教養講座については、これまでから受講者アンケートを実施し、受講者の御意見や御要望をお伺いし、より良い講座にするよう努めております。

イ 健康増進事業について (17件)

市民の皆様の御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> トレーニングマシンの更新に多額の経費が必要となることは理解できるが、最近ではマシンを使用しないトレーニング方法もあるため、場所だけでも残して欲しい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 現在本市では、トレーニングマシンを利用しない高齢者向け筋力トレーニングプログラムの普及促進に取り組んでいます。 今後、これらの施策をより有効に活用していただくための手法について、検討していきます。
<ul style="list-style-type: none"> 介護予防のため月2回程度、スカイクロスゲームをしたり高齢者の健康維持、体力向上のために山間の綺麗な空気の中で運動できる保養研修センターを存続して欲しい。 健康増進室を頻繁に利用するが、地域住民が今後も運動を継続できるよう、健康増進事業を存続して欲しい。 	16	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進事業については、近年、利用者の固定化傾向や民間によるフィットネスクラブ事業所数が増加していることを踏まえて、廃止することとしています。 また、地域介護予防推進センターや老人福祉センターにおいても介護予防事業を実施しており、高齢者の健康づくりに取り組んでいます。 今後、健康づくりの維持・向上のためにも、地域の自主的な活動拠点の代替機能の確保に向け検討を進めるとともに、ふれあい広場についても、引き続き、緑地として機能の確保に努めます。

(4) 運営に関すること (13件)

市民の皆様の御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>・ 宿泊・貸館の運営経費、設備の老朽化やトレーニングマシンの更新に係る経費についてはオープン当初から分かっていたことであり、廃止の理由にはならない。</p>	<p>1</p>	<p>・ 宿泊・貸館機能については、保養研修センターの開所以降、バリアフリー化が進展するとともに、民間による代替施設の増加等により、利用者数が低迷し、とりわけ、宿泊機能については、京都市民の利用が少ない状況にあります。今後、利用者数の大幅な改善の見通しが立たない状況の下、運営を維持するためには、引き続き、多額の公費負担が必要となります。また、高齢者福祉分野をはじめとする福祉関係予算については、今後、増大が見込まれており、限られた財源をより一層有効に活用する必要があります。</p> <p>このような状況を十分に踏まえ、今回の見直しに至ったものです。</p>
<p>・ 稼働率の低迷は、広報が不足しているからだ。また、新しい企画を用意すべきである。</p>	<p>7</p>	<p>・ これまで、旅行企画会社とタイアップした修学旅行生の受入れや誘致、「京都・嵐山花灯路」等のイベントとのタイアップにも取り組んできましたが、民間宿泊施設の増加や社会経済情勢の変化等の影響もあり、稼働率が低迷しています。</p>
<p>・ 人員削減をはじめとしたコスト削減を図るべきである。</p>	<p>1</p>	<p>・ 保養研修センターは、平成18年度から指定管理者制度を導入し、民間活力による効率的かつ創意工夫を凝らした施設運営に努めてきましたが、民間宿泊施設の増加等により利用者数が低迷し、採算性の確保が著しく困難になっております。</p>

<p>・京都市には地域住民の活動拠点が少ない。大枝・桂坂学区の住民をはじめ、京都市民が活発に活動できるよう、運営を第三セクターに任せても、保養研修センターの存続を希望する。</p>	1	<p>・京都市では、市民活動の促進を図るため、市民活動総合センターの設置や福祉ボランティアセンターの設置、また、高齢者の居場所づくり等に取り組んでいます。</p> <p>これまで、保養研修センターの貸館機能については、地域住民の皆様にご好評いただき、地域コミュニティの維持・向上に大きく寄与してきました。このため、大枝・桂坂学区において、その代替機能の確保に向け検討を進めます。</p> <p>なお、平成18年度からは、指定管理者制度を導入し、民間活力を導入しております。</p>
<p>・廃止に至るまでの経営努力、また、京都市からの指導がなかったように思える。また、運営については市社協から区社協へ移管させ、シルバー人材センターへ委託し従業員を減少させるべきだ。加えて貸館を廃止すれば、健康増進室の拡張やトレーニングマシンの増設も可能となるはずである。利用者の意見を聞いて欲しいし、話し合いの場が欲しい。</p>	3	<p>・保養研修センターの運営については、平成18年度から指定管理者制度を導入し、民間活力の導入によるサービスの向上と効率的な施設運営に努めてきました。</p> <p>これまで、適宜、京都市による実地の施設確認や毎年度の報告書の提出に加え、必要に応じて、指導等を行ってきたところです。</p> <p>現在、保養研修センターの維持管理業務の一部を、指定管理者からシルバー人材センターへ再委託し、運営上の工夫も図られています。</p> <p>しかし、健康増進事業については、利用者の固定化傾向や民間のフィットネスクラブ事業者数の増加により、採算性の観点からも、各機器の更新は困難な状況となっています。</p> <p>なお、今回の保養研修センターのあり方検討に当たっては、利用者の皆様の御意見の反映を図るため、利用者団体として京都市老人クラブ連合会、京都市社会福祉施設連絡協議会及び地元自治連合会、さらには、市民公募委員にも御参画いただき、それぞれの立場ごとに熱心な御議論をいただきました。</p>

(5) その他 (14件)

市民の皆様の御意見	件数	御意見に対する本市の考え方
<p>・レストランについて、グレートの高い食事を提供して欲しい。</p>	1	<p>・レストランについては、地産地消による食事の提供や利用者に御希望に応じたお食事の提供を行っています。</p> <p>しかし、これまで、可能な限り利用者の皆様の御要望にはお応えさせていただいてきましたが、他の民間宿泊施設とは異なり、宿泊料金を比較的低廉に設定し、採算性の制約がある中で、現在のお食事の内容としています。</p>
<p>・認知症施策推進5か年計画に対応するよう認知症に関する会議や勉強会への活用を検討して欲しい。</p>	1	<p>・本市では、平成15年に高齢者の権利擁護を中心とした専門機関とし京都市長寿すこやかセンターを設置し、認知症に関する相談や研修・講座等を実施しています。今後も認知症施策の充実を図って参ります。</p>
<p>・保養研修センターは年金生活者にとって大切な場所である。廃止というようなことは考えないで欲しい。</p>	6	<p>・今後、市民の皆様のいのちと暮らしを守る高齢者福祉分野をはじめとする福祉関係予算の一層の増加が見込まれる中、限られた財源をより有効に活用する必要があります。</p> <p>しかし、平成6年6月に保養研修センターが開所して以来、社会経済情勢が大きく変化する中、宿泊・貸館機能については、民間宿泊施設の増加、設備の老朽化等により、利用者数が低迷し、採算性の確保が著しく困難になっているとともに、その他の事業についても、京都市長寿すこやかセンターの設置及び民間事業者による代替施設の増加により、保養研修センターとして事業を継続する必要性が低下しています。</p> <p>このため、上記の事業のうち社会福祉に関する研修を行う事業については、京都市長寿すこやかセンターが承継し、従前から実施している高齢者の福祉に関する研修と併せて社会福祉に関する研修を実施することとすることにより、同センターにおける研修の充実を図るとともに、保養研修センターを廃止することとしています。</p>

<p>・検討委員会には利用者団体が参画していないように思える。</p>	<p>3</p>	<p>・検討委員会には、利用者団体として京都市老人クラブ連合会、京都市社会福祉施設連絡協議会及び地元自治連合会、さらには、市民公募委員にも御参画いただき、それぞれのお立場ごとに熱心な御議論をいただきました。</p>
<p>・宿泊・貸館の廃止を決めた後に意見を求めるやり方は反対である。</p>	<p>1</p>	<p>・保養研修センターの今後のあり方に関する基本方針（案）については、利用者団体、学識経験者、企業経営経験者、公認会計士の皆様に御参画いただいた検討委員会における御議論及び検討委員会からの御提言を踏まえて、本市において策定したものです。</p> <p>また、利用者のみならず、広く市民の皆様の御意見を聴取する目的でパブリックコメントを実施させていただいたものです。</p>
<p>・保養研修センターの設置目的を実現するための仕事ができているかの検証が必要である。また、高齢者や障害のある方のニーズに合致していたかの点検が必要だ。</p>	<p>1</p>	<p>・保養研修センターの今後のあり方検討に当たっては、利用者ニーズや時代のニーズに合致しているかという点についても御議論をいただきました。</p> <p>検討委員会からは、バリアフリー化が大きく進展していない時代において、市内で唯一の高齢者の保養施設であるとともに、宿泊と一体となった研修施設として、高齢者の保養や健康の保持、また、介護職員をはじめとする社会福祉施設職員の質の向上に大きく寄与し、さらには地域コミュニティの拠点として地域においても大きな役割を果たしてきたものと一定の評価をいただきました。</p> <p>しかし、開所から約20年の歳月が経過し、福祉施策を取り巻く環境は大きく変化する中で、今回の見直しに至ったものです。</p>
<p>・保養研修センターで働く職員の雇用について、特段の配慮をお願いします。</p>	<p>1</p>	<p>・指定管理期間中での見直しとなるため、誠実に指定管理者と協議して参ります。</p>